

地域の MSM に向けたエイズ対策を促進するため、CBO、自治体・保健所等との連携構築を図った。7地域のCBOは、商業施設、メディア、Webなどのネットワークを介して、MSMに向け様々な取り組みを継続し、新たな取り組みを試行した。各地域のCBOは、地域のほとんどの商業施設と関係を構築し、資材等のアウトリーチを行った。またCBOは、自治体・保健所等と連携してMSMのHIV検査促進に取り組んだ。東北(仙台)、首都圏、東海(名古屋)、大阪、福岡、沖縄、愛媛の地域で、保健所のHIV抗体検査担当者へのMSM対応の研修の実施、保健所のHIV抗体検査をMSMに向けて広報する資材作成、配布が行われた。

3. MSMにおける行動科学調査および介入評価研究

1) 全国の成人男性・女性を対象としたインターネットによる質問紙調査

A 社保有のモニター登録者(調査実施時点の20歳から59歳のモニター登録者数は2,074,265人)から男性31,192人、女性30,682人に性、性的指向等のスクリーニング調査を実施した。成人男性中のMSMは4.1%で2011年度(4.6%)とほぼ同値であった。同性と性行為をする女性、金銭を払った性経験を有する男性(性産業利用男性)、金銭をもらった性経験を有する女性(性産業従事女性)等も把握した。

2) コミュニティベースの携帯電話による性の健康に関する質問紙調査(GCQアンケート)

7地域に居住するゲイ・バイセクシュアル男性を対象にインターネットによる横断調査、追跡パネル調査を2回実施した。横断調査に続いて実施する追跡パネル調査は資材認知や行動の変化を把握する手法として有用であった。しかし調査を有効にするには参加者を拡大する工夫が必要であった。

3) HIV抗体検査受検者を対象とした質問紙調査 (1) 都市部の保健所におけるHIV抗体検査受検者特性に関する研究

HIV陽性判明報告のある保健所の受検者特性としてMSMと居住地が示され、HIV感染の早期発見にはこれらを指標として検査環境を改

善していく必要がある。

(2) HIV抗体検査受検者における特性と介入の効果評価に関する研究

HIV陽性判明を想定した場合の受診行動には、家族や周囲の友達の支援、相談先などの社会環境の整備が関連していた。一方でMSMや性産業従事女性は家族への相談がしにくいと感じており、相談先などの社会環境の整備が重要と考えられた。

(3) HIV郵送検査と保健所等におけるHIV抗体検査受検者の特性に関する研究

郵送検査では、一人暮らしや既婚者の割合、初受検者割合、金銭を払った性経験や金銭をもらった性経験の割合などが他の検査機関の受検者に比べて高く、これらの受検者層が郵送検査を自発的に選んでいる傾向が伺えた。他の検査機関も含め受検者への支援情報の提供が必要と思われる。

4) ロジックモデルを用いたCBOによるHIV啓発活動のプロセス評価

特定非営利活動法人aktaがプログラム対象についてどのように理解してプログラムを運営しているのかを記述し、スタッフが個々に持っていたアウトリーチプログラムに関する理解を可視化した。加えて、モデルに基づいた評価指標を提示した。

4. 自治体におけるMSMのHIV感染対策構築に関する研究

個別施策層へのエイズ対策は、当事者がおこなわれている社会状況を理解し、必要としている対策を信頼関係の下に展開することが望まれる。研究班では、これまでの当事者参加型の体制に地域のエイズ担当者を加え、保健所等のHIV検査体制とCBOの広報活動の連動、受検者動向調査やMSMの行動調査等の分析結果を共有する体制構築を図った。

F. 知的所有権の出願・取得状況(予定を含む) なし

G. 研究発表

(2013 年度研究班関連の論文、国際学会、国内学会発表)

(論文等)

- 1) 塩野徳史, 金子典代, 市川誠一, 山本政弘, 健山正男, 内海眞, 木村哲, 生島嗣, 鬼塚哲郎: MSM(Men who have sex with men) における HIV 抗体検査受検行動と受検意図の促進要因に関する研究, 日本公衆衛生学雑誌, 2013, 60 卷(10 号), 639-650
- 2) Harutaka Katano, Yoshiyuki Yokomaku, Hitomi Fukumoto, Takayuki Kanno, Tomoyuki Nakayama, Akitomo Shingae, Wataru Sugiura, Seiichi Ichikawa, and Akira Yasuoka: Seroprevalence of Kaposi's Sarcoma-Associated Herpesvirus Among Men Who Have Sex With Men in Japan, Journal of Medical Virology, 2013, 85, 1046-1052
- 3) 福山由美, 市川誠一, 大林由美子, 杉浦 互, 横幕能行: 愛知県におけるエイズ診療拠点病院初診患者の受診遅れと検査遅れに関連する要因, 日本エイズ学会誌, 2013, 15(2), 119-127
- 4) 堀希好, 金子典代, 市川誠一: 養護教諭が生徒から受ける同性への性的指向の相談の実態と対応に関する研究, 思春期学, 2013, 31(1), 167-174

(国際学会)

- 1) D. Dorjgotov, S. Oka, S. Ichikawa, E. Gombo, D. Jagdagsuren, S. Shiono, N. Galsanjamts: Effect of the activities of non-governmental organizations (CBOs) on men who have sex with men (MSM) in Mongolia, the 11th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific, Bangkok, Thailand, 2013
- 2) N. Galsanjamts, M. Dorjgotov, E. Gombo, D. Jagdagsuren, S. Shiono, N. Kaneko, S. Oka, S. Ichikawa: Development & implementation of the project "We are

Living Under the Same Sky", the 11th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific, Bangkok, Thailand, 2013

- 3) Daisuke Goto, Satoshi Shiono, Toshio Machi, Tetsuro Onitsuka, Noriyo Kaneko, Seiichi Ichikawa: Effectiveness of preventive intervention related to condom use among MSM in the Kinki area, the 11th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific, Bangkok, Thailand, 2013
- 4) Satoshi Shiono, Seiichi Ichikawa, Yuki Tada: Trends in the incidence of HIV and AIDS by decade of birth among MSM of Japanese nationality, the 11th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific, Bangkok, Thailand, 2013
- 5) Seiichi Ichikawa: HIV Prevention Strategy among Men who have Sex with Men (MSM) in Japan, - Current situation of HIV infection among MSM and prevention activities of CBOs-, The 11th Taipei International Conference on HIV/AIDS, Taipei, September 2013

(国内学会)

- 1) 市川誠一: バー調査から/検査機関の調査から見えること～性行動, 検査行動, 予防行動, 中高年が検査にいかない理由, シンポジウム 3 (社会) 「MSM の感染予防とその課題～多角的な視点から考える」, 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013 年 11 月 20 日
- 2) 金子典代, 塩野徳史, 健山正男, 山本政弘, 鬼塚哲郎, 内海眞, 伊藤俊弘, 岩橋恒太, 市川誠一: MSM 向けインターネット横断調査に続く追跡パネル調査法の妥当性の検討, 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013 年 11 月
- 3) 牧園裕也, 荒木順子, 石田敏彦, 太田貴, 金城健, 後藤大輔, 伊藤俊広, 内海眞, 鬼塚哲郎, 山本政弘, 健山正男, 塩野徳史, 金子典代, 市川誠一: MSM 向けエイズ対策としてのコミュニティセンターの意義と妥当性の検討, 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会,

熊本市，2013年11月

- 4) 佐久間久弘，荒木順子，岩橋恒太，柴田恵，大島岳，木南拓也，阿部甚兵，金子典代，塩野徳史，市川誠一：コミュニティセンターaktaを基点としたMSM向け性風俗店との連携を通じた予防行動促進キャンペーンの構成，第27回日本エイズ学会学術集会・総会，熊本市，2013年11月
- 5) 高野操，中澤よう子，金子典代，塩野徳史，生島嗣，荒木順子，岩橋恒太，市川誠一，岡慎一，木村哲：首都圏保健所におけるHIV抗体検査受検者に対する結果通知率と陽性者の医療機関受信確認率，第27回日本エイズ学会学術集会・総会，熊本市，2013年11月
- 6) 町登志雄，後藤大輔，鬼塚哲郎，川畑拓也，塩野徳史，市川誠一：MSM向けHIV検査普及プログラム「クリニック検査1000円キャンペーン」広報についての考察，第27回日本エイズ学会学術集会・総会，熊本市，2013年11月
- 7) 川畑拓也，後藤大輔，町登志雄，鬼塚哲郎，塩野徳史，市川誠一，岳中美江，岩佐厚，亀岡博，菅野展史，高田昌彦，田端運久，中村幸生，古林敬一，小島洋子，森治代：診療所を窓口としたMSM向けHIV検査普及プログラムの改良に向けた検討，第27回日本エイズ学会学術集会・総会，熊本市，2013年11月
- 8) 森祐子，蒔田寛子，清瀧裕子，鬼頭拡美，市川誠一，杉浦互，横幕能行：保健所HIV抗体検査でのカウンセラーの担う役割を検討する～相談利用の促進・阻害要因に関する質的研究～，第27回日本エイズ学会学術集会・総会，熊本市，2013年11月

II. 分担研究報告

東北地域の MSM における HIV 感染対策の企画と実施

分担研究者：伊藤俊広（独立行政法人国立病院機構仙台医療センター 医長）

研究協力者：太田貴、高橋幸二（やろっこ）、小浜耕治（東北 HIV コミュニケーションズ）、佐藤功、塚本琢也、鈴木智子、中村恵、佐々木晃子、伊藤ひとみ（独立行政法人国立病院機構仙台医療センター）、塩野徳史、金子典代、市川誠一（名古屋市立大学看護学部）

研究要旨

仙台市繁華街のドロップイン施設（community center ZEL：2010 年 3 月開設）が 2013 年度も活動拠点となり、昨年同様感染拡大抑制のための企画立案・実施・評価研究がなされた。東日本大震災（2011. 3. 11）から 3 年目となり仙台市への人口流入が続いている。感染機会の増加から HIV 感染拡大が懸念されるが、現在のところその兆候はみられていない。ZEL 来館者は本年 12 月時点で昨年度同時期と比べ総数、新規とも増加している。ZEL の周知も考慮したフリーペーパーや、コンドーム使用を呼びかけるポスター・カードの作成配布、種々のイベント・バレーボール大会などを介して啓発活動が行われ、コミュニティネットワークを用いた MSM を対象とする性の健康、HIV/AIDS 感染予防行動に関する質問紙調査 - GCQ アンケート - により評価された。仙台市保健所検査受検者における MSM の割合が漸増しているだけでなく、仙台市 HIV 即日検査会においても MSM の割合が著増しており community center ZEL の活動による成果と考えられる。

東北においては、2013 年度 9 月の時点で昨年度同時期と比べ 29 名の新規感染者が報告された。幸運なことに爆発的な増加のきざしはないが、「いきなり AIDS 率」は相変わらず高値で 47% であった。AIDS 発症率を低下させるためには性感染症（梅毒、B 型肝炎、クラミジア etc.）を意識して検査アプローチを図ることが重要であるが、それだけでなくあらゆる機会をとらえて抗体検査を実施していく必要がある。感染拡大を抑制していくには抗体検査の実施機会を増やし、早期診断を促し早期に治療をおこなうことにより 2 次感染を抑える必要がある。

A. 研究目的

HIV 感染症の拡大を抑止するためには MSM に対する積極的なアプローチが必要である。効果的な HIV 感染予防対策のため、MSM を対象に種々の企画を立案・実施し、さらにその評価を的確に行うための体制整備に関して研究を行う。東北地域における研究について分担した。

B. 研究方法

最終年度（3 年目）である 2013 年度も「仙台医療センター」、1993 年より HIV に関わる

活動をしている NPO「東北 HIV コミュニケーションズ（THC）」、ゲイコミュニティ向けの HIV 啓発チーム「やろっこ」の三者を中心として、行政、医療、福祉、コミュニティ等と協働して東北地方における男性同性間の HIV 感染対策（下記 1～4 の事項）について、介入、企画実施、調査・研究を行なった。特に 3. のゲイコミュニティへの啓発活動として、community center ZEL の運営、啓発資料の作成・配布、HIV を身近に感じるためのイベントの開催、ゲイコミュニティを対象としたアンケート調査を行った。また、本年度も保健

所の HIV 抗体検査受検者を対象にした質問紙調査を行い、検査受検者の特徴や差異を把握した。

1. 医療者への積極的な HIV 検査の勧め
2. 仙台医療センターの HIV 感染者における重複性感染症 (STD) の解析
3. ゲイコミュニティへの啓発活動
4. MSM における行動科学調査及び介入評価研究

C. 研究結果

東北ブロックにおける HIV 感染者・AIDS 患者の累積数は2013年9月時点で495名と報告され、2012年同時期と比べ29名増加した(図1)。

仙台医療センターの受診者の内訳(2013.12月末まで)をみると(図2)、本年度も感染経路別頻度に変化はみられず、東北においても依然としてMSM対象の介入研究は重要である。初診HIV患者数は17人でこのうち新規感染者は10名(AIDS:3例)であった。

図1. 東北県別エイズ/HIV感染者累積数推移 (非血友病): 総計495人(H25.9月)

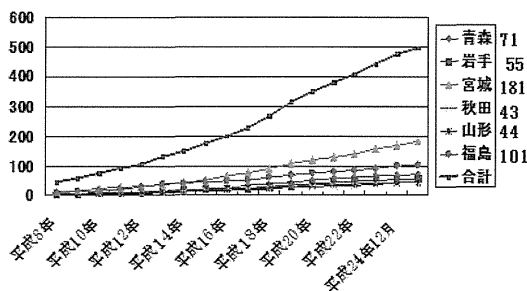
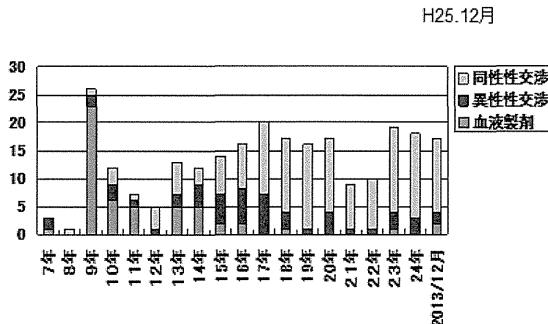


図2. 仙台医療センター新患者数推移 総計252人(血液53、同性148、異性51、女性23) H25.12月



1. 医療者への積極的な HIV 検査の勧め

HIV 感染症は性感染症 (sexually transmitted disease:STD) であることから種々の STD の診断を HIV 抗体検査の機会ととらえ検査件数の増加を促し、早期診断に結び付けることができる。

以下に記す種々の研修会・会議を通して医療従事者に対して積極的な HIV 検査の必要性について情報提供するとともに、行政とも連携し抗体迅速検査も実践した。

1) ブロック拠点・中核拠点・拠点病院連携 (医師・歯科医師・看護師・薬剤師対象)

東北エイズ/HIV看護研修 (H25.10.1:仙台、27名参加)、東北エイズ歯科診療協議会・連絡会議 (H25.3.2:仙台35名参加、H26.2.8:仙台35名)、東北ブロック・エイズ拠点病院等連絡会議 (H25.1.16 仙台68名参加、H25.6.25:山形、45名参加、H26.1.15:仙台81名参加)、講演:①「HIV/AIDS 診療の現況〜特に非 AIDS 合併症について〜」ACC 矢崎博久医師、②「HIV 感染症病棟における病棟常駐活動」ACC 薬剤師増田純一子、発表:(山形県の取り組み)イ)山形県行政、ロ)山形大学病院、ハ)山形県立中央病院、東北エイズ/HIV 拠点病院等薬剤師連絡会議 (H25.10.19:仙台、49名参加)、東北エイズ臨床カンファレンス (H25.2.16:仙台、57名参加、):講演:①「Aging/HAND/New Drug 等を含めた長期治療マネジメント」大阪医療センターHIV/AIDS 先端医療開発センター長、白阪琢磨、②「抗 HIV 薬の簡易懸濁法/日和見感染症治療薬等との相互作用について」大阪医療センター薬剤師矢倉裕輝、同カンファレンス (H26.2.9:仙台、約40名参加):講演:①「HIV/AIDS 最新のトピックス」横浜市立市民病院感染症内科科長、立川夏夫、②「HIV/AIDS 診療における薬剤師の役割とは」東京医科大学病院薬剤科、関根祐介、東北 HIV ネットワーク会議 (H25.2.16:仙台、13名出席、H26.2.9:仙台、10名出席)、宮城県歯科医師会 HIV 研修 (H25.2.23、11.16 仙台歯科医師会館)、東北

エイズ中核拠点病院歯科連絡会議 (H25. 11. 16 仙台 6 名参加)、HIV/AIDS 臨床検討会 (ACC/東北大学/仙台医療センター症例、H25. 3. 20、仙台医療センター、9. 14 東北大学病院)、宮城県 HIV/AIDS 学術講演会 (H25. 8. 31 : 仙台、70 名参加、講演 : 「日本の HIV 感染者の現状」 東京医科大学病院講師、山元泰之)

2) 心理・MSW 連携

東北エイズ・HIV 拠点病院等心理・福祉職連絡会議 (H25. 10. 19: 仙台、21 名参加)、HIV 感染者の挙児希望にかかるカウンセリング体制整備会議 (H25. 8. 3、東京)

3) 行政連携

HIV 迅速検査会 (仙台市主催) (H25. 6. 1、12. 7: 仙台、受検者 130 名 x2)、仙台市エイズ・性感染症対策推進協議会 (仙台市主催) (H25. 2. 1、H26. 3 予定、仙台)、仙台医療センター健康まつり即日検査会 (H25. 11. 2: 仙台、30 名受検)

4) 介護福祉連携

AIDS/HIV 感染症出張セミナー (介護保険施設、岩沼市、約 40 名参加)、H25 年度 HIV 感染者・エイズ患者の在宅医療、介護環境整備事業実地研修 (仙台医療センター、H26. 1. 27~1. 31、2 名受け入れ)

5) 啓発・教育

岩手県の高校生、大学生を対象に講義 (LAS 実地研修、仙台医療センター、H25. 10. 12) 院内新人オリエンテーション (H25. 4. 4、仙台医療センター)、山形病院附属看護学校講義 (H25. 8. 27)

6) その他 (別主催研修/会議出席、講演など)

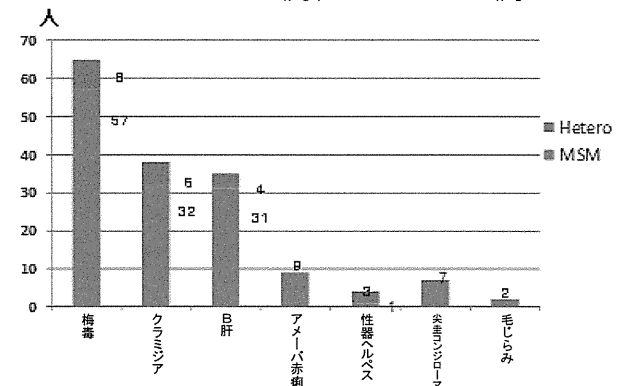
ACC 看護研修 (H26. 1. 23~24、ACC)、ACC/ブロック拠点病院看護管理者会議 (H25. 6. 7、ACC)、ACC/ブロック拠点病院実務担当者フォローアップ研修 (H25. 6. 8、ACC)、ACC/ブロッ

ク拠点病院実務担当者会議 (H25. 3. 9、ACC)、全国中核拠点病院連絡調整員会議 (H25. 3. 9、ACC)、2013 AIDS 文化フォーラム in 横浜 (H25. 8. 5、横浜)、HIV/AIDS ブロック拠点病院薬剤師連絡会 (H25. 5. 24、東京)、第 51 回抗 HIV 薬服薬指導のための研修会 (H25. 8. 24~25、広島)、第 23 回日本医療薬学会 (H25. 9. 22、仙台) etc.

2. 仙台医療センターの HIV 感染者における重複 STD の解析

重複 STD の解析 (図 3) では、MSM における STD 重複感染率 (特に梅毒、クラミジア、B 型肝炎) は非常に高い。

図 3. HIV/STD 重複感染 (2013. 12 月) MSM 148 例、hetero 51 例



3. ゲイコミュニティへの啓発活動

MSM を対象とした community center ZEL (以下、ZEL) は、2010 年 3 月 20 日に仙台の繁華街である国分町に開設され、仙台で MSM を対象に HIV の情報を届けるボランティアグループ「やろっこ」が運営を担っている。2010 年度には、1,311 名、2011 年度 1,896 名、2012 年度 1,681 名の来場者があり、仙台を中心とするゲイコミュニティに対し HIV に関する情報提供を行ってきた。

2013 年度の来館者は 12 月末現在、1,422 名。2012 年度の同期間 (1,332 名) と比べ 107% と増加している。新規来館者数は 12 月末現在 107 名で、こちらも 2012 年度の同期間 (81 名) と比べ 132% と増加している。

2013 年度は、ZEL の周知促進のため、イラ

スト展など集客力のある企画を行ったため、来場者総数、新規来場者数が増加したと考えられる。

2013年度においてもZELでは、HIVに関連した冊子やコンドームを配布することに加え、様々なイベント等を通してHIVに関する情報提供を行った。震災後、宮城県、特に仙台市では、復興需要から流入人口が増加していることから、転入者を対象にZELの周知とHIVの情報提供を行う「仙台デビュー」を年4回実施。のべ33名の参加があった(図4、5)。

啓発資材の配布としては、2012年度に引き続き、2013年度も仙台市エイズ即日検査会のMSM向け広報資材(ポスターとカード)をゲイバーなど、MSM向けの商業施設に配布し、HIV検査の啓発を行った(図6)。

図4.

community center ZELのプログラム



- **仙台デビュー**
新規来館者獲得のための友達づくりイベント
対象: 仙台で新生活を始めるMSM、ネット利用層・コミュニティ非利用層のMSM
年4回実施(4/27 12名、7/13 7名、10/12 8名、1/25予定)
- **R-35 35歳からのGAY LIFE**
中高年層の来館促進と中高年層のセクシャルヘルス向上を目的としたイベント
対象: 35歳以上の中高年ゲイ男性
年2回実施(5/18 11名、2月予定)
- **HIV陽性者と語ろう**
HIV陽性者の話を聞くイベント。HIV陽性者の現状等の情報提供を行う。
対象: HIV/AIDSに関心のある人、HIV陽性者が身の回りにはいない人など
年2回実施→年1回実施(8/10 10名)
- **その他**
新規来館者獲得のためのイラスト展、作品展などを実施(5月、8月、9月、12月)

図5.

community center ZEL 年間活動と来場者数

月日	イベント等	人数	月日	イベント等	人数
4/27	仙台デビュー	12	9/21	クラブイベント(アウトリーチ)	55
4/本	フリーペーパー vol.17発行		9/22-30	ケツ割れ展 RETURNS	62
5/4	バレー大会(アウトリーチ)	150	9/30	HIV検査担当者研修	15
5/4	クラブイベント(アウトリーチ)	86	10/12	仙台デビュー秋	8
5/18	R-35 35歳からのGAY LIFE	11	10/25	バレー大会(アウトリーチ)	150
5/21-6/11	おめんたいこぎイラスト展	76	10/本	フリーペーパー vol.18発行	
6/1	仙台市エイズ即日検査会	20/71	11/30	Living Together in SENDAI	57
7/15	仙台デビュー夏	7	12/2-17	SUVイラスト展	
7/本	フリーペーパー vol.18発行		12/7	仙台市エイズ即日検査会	
7/本	コンドーム使用ポスター配布		1/25	仙台デビュー冬	
8/5-27	ケツ割れ展	112	1/本	フリーペーパー vol.20発行	
8/10	Living Together in SENDAI	67	2/15	R-35 35歳からのGAY LIFE	
8/10	HIV陽性者と語ろう	10	3/20	ZEL活動報告会	

図6. コンドーム使用を呼びかけるポスター・カードの作成・配布

そろそろ「とりあえず生」を卒業しよう。

その場の雰囲気や相手に流されて
コンドームを使わない「生」を選択している
MSMへ、コンドーム使用を呼びかける
メッセージを掲載したポスター。
【作成数】ポスター A3版 40部
カードA6版 1,000部



【配布時期】ポスター 7月下旬～配布開始 カード 10月下旬～配布開始

【配布先】東北地域のMSM向け商業施設(31軒)、クラブイベント、バレー大会
全国のcommunity center等
*community center ZELフリーペーパー vol.18(7月下旬発行、部数1,200部)でも
同じ内容の特集記事を掲載。

仙台市のHIV検査については、ZELが2010年の開館以来定期的に発行しているフリーペーパー(2013年度は年4回発行)にも情報を掲載し、HIV検査の受検促進をはかってきた。

仙台市のHIV抗体検査受検者に占めるMSMの割合は、通常検査、即日検査会とも増加傾向にあった(表1、2)。宮城県内6保健所で実施したHIV抗体検査受検者を対象とした質問紙調査では、受検中のMSM割合が2012年10.4%から2013年12.3%と増加が見られた。またMSM受検者はCBO・やろっこの啓発資材等の認知が40.7%、首都圏で構築されたゲイ向けサイト「HIVマップ」の認知率も11.9%と高く、他の受検者層と有意差が見られ、MSMに訴求していることが示された(付表2)。MSM受検者のCBOの活動や啓発資材認知別の差異については付表3に示した。

表1 仙台市HIV抗体検査の受検者に占めるMSM割合の推移

2008	2009	2010	2011	2012
4.5%	5.0%	5.8%	7.5%	10.1%

表2 仙台市エイズ即日検査会の受検者に占めるMSMの割合

2010 12月	2011 12月	2012 6月	2012 12月	2013 6月
10%	15%	9%	19%	28%

また、新たに、岩手県の保健所で実施されている HIV 検査の MSM 向け広報資材（ポスターとカード）を作成し、盛岡市内の MSM 向け商業施設に配布を行い、盛岡市保健所の HIV 検査広報資材の配布にも協力した（図 7）。

図 7. HIV 抗体検査受検促進のための MSM 向け資材作成・配布

- 仙台市 HIV 検査会（6/1 および 12/7）
カード 500～700部/1回 ポスター 30～50部/1回
【配布時期】
1回目：5月～配布開始（6/1検査会告知）
2回目：9月～配布開始（12/7検査会告知）
【配布先】
仙台市内の MSM 向け商業施設（14～15軒）
クラブイベント バレー大会
仙台市内の保健所 等
- 岩手県の保健所検査
カード 500部 ポスター 30部
【配布時期】10月～配布開始
【配布先】
岩手 MSM 向け商業施設（5軒）
community center ZEL

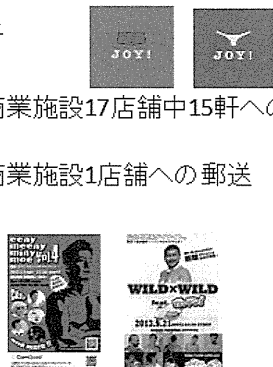


仙台市内のゲイバー・ハッテン場への定期的なコンドーム配布に加え、秋田市内のゲイバー 1 軒でもコンドーム配布を開始した。4 月から 12 月までの 9 ヶ月間でゲイバーとハッテン場の計 16 軒で、3,900 個を配布した（図 8）。

今年度はコンドームの配布に加え、コンドームの使用を促すための資材（ポスターとカード）を作成、7 月末より東北全域の MSM 向け商業施設 32 店舗に配布した。

図 8. コンドーム・アウトリーチ

- 仙台市内の MSM 向け商業施設 17 店舗中 15 軒への定期的なアウトリーチ
- 秋田県内の MSM 向け商業施設 1 店舗への郵送
- クラブイベント
（年 2～3 回 5/4、9/21）
- バレー大会でのアウトリーチ（年 2 回 5/4、10/26）



4. MSM における行動科学調査及び介入評価研究
ゲイコミュニティに対するアンケート調査として、クラブイベントおよびバレーボール

大会と連携した web アンケート調査（以下、GCQ アンケート）を 5 月に実施し、161 件の有効回答を得た。全国の同時期のアンケートの東北分回答者を含めると 182 件の有効回答の結果は付表 4-7 に示した。GCQ アンケートでは、HIV 検査の過去 1 年間の受検率が 29.1% と、昨年度の 35.3% より減少した（表 3）。

表 3 過去 1 年間の HIV 抗体検査の受検率の推移

2009	2010	2011	2012	2013
29.1%	23.3%	29.9%	35.3%	29.1%

年代別にみると、25 歳～39 歳の年代では、30%以上が過去 1 年間に HIV 検査を受検しているが、24 歳以下の若年層が 26.1%、40 歳以上の中高年が 19.6% と低くなっていた（表 4）。

表 4 年齢別に見た過去 1 年間の HIV 抗体検査の受検率

24 歳以下	25-29 歳	30-34 歳	35-39 歳	40 歳以上
26.1%	41.0%	31.8%	31.0%	19.6%

コンドームの常用率については、友達やセクフレ相手では 2012 年より使用割合が高くなったものの、その他では 2012 年度よりも使用割合が低くなった（表 5）。

表 5 相手別に見た過去 6 ヶ月のコンドームの常用率

相手	2012	2013
彼氏や恋人相手	48.9%	27.5%
友達やセクフレ相手	30.9%	55.3%
その場限りの相手	54.5%	35.3%

D. 考察

仙台市の HIV 抗体検査受検者に占める MSM の割合の増加は、MSM 向けに行ってきた検査広報資材の作成・配布が成果を上げてきているものと考えられる。

しかしながら、40 歳以上で過去 1 年間の HIV 抗体検査の受検経験が低くなっている。東北

地域では「いきなりエイズ」の割合が高く（動向調査によれば2013年は9月の時点ですでに47%台の値を呈している）、中でも中高年での割合が高くなっている。こうした現状を考えると、例年同様、種々の職種における研修会・研究活動を活発化し、HIV 感染症について意識を高め HIV 抗体検査実施件数を増やすとともに感染予防の啓発をすすめていく必要があり、特に中高年の MSM に向けた HIV 検査の受検促進の取り組みが必要と考えられる。

また、アンケートの結果を見ると、コンドームの使用率が低くなっていた。今年度行ったコンドーム使用を呼びかける資材の作成・配布の効果についての効果についてはまだ検証できていないが、コンドーム使用を広める取り組みを継続的に行っていく必要がある。

E. 結語

東北(仙台)のゲイコミュニティへ向けた啓発(企画、実施、評価)の体制作りが ZEL を中心とした活動により進みつつあり、保健所受検者の中で MSM の占める割合が増加してきている。コミュニティを中心とした啓発活動の結果と考えられる。今後も東北各地域の MSM との接触機会を増やし活動範囲を広げ、HIV 感染拡大に対する予防啓発活動を積極的に進めていく必要があり、協力可能な NGO と連携を強め、MSM におけるゲイコミュニティの理解を得つつ、より効果的なプログラムを開発・提供し、彼らの行動変容が可能になるようにしてゆく必要がある。そのためには戦略的に行政等の機関への提言を行い、より広い連携体制を継続的に構築してゆくことが今後も求められる。

F. 発表論文等

(○印は当研究班に関連した発表論文等)
(学会発表)

1. ○金子典代, 塩野徳史, 健山正男, 山本政弘, 鬼塚哲郎, 内海眞, 伊藤俊弘, 岩橋恒太, 市川誠一: MSM 向けインターネット横断調査

に続く追跡パネル調査法の妥当性の検討, 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013

2. 佐藤麻希, 山本善彦, 阿部憲介, 水沼周市, 小山田光孝, 伊藤俊広: 災害時に対応した抗 HIV 薬供給と服薬支援策の検討-第 2 報- ~震災・被災 HIV 患者アンケート調査から考える未来への備え~, 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013
3. ○太田貴, 高橋幸二, 伊藤俊広, 塩野徳史: 東北地方の MSM を対象とした HIV 抗体検査の受検促進のための取り組み, 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013
4. ○牧園裕也, 荒木順子, 石田敏彦, 太田貴, 金城健, 後藤大輔, 伊藤俊広, 内海眞, 鬼塚哲郎, 山本政弘, 健山正男, 塩野徳史, 金子典代, 市川誠一: MSM 向けエイズ対策としてのコミュニティセンターの意義と妥当性の検討, 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013
5. 重見麗, 服部純子, 蜂谷敦子, 瀧永博之, 渡邊大, 長島真美, 貞升健志, 近藤真規子, 南留美, 吉田繁, 森治代, 内田和江, 椎野禎一郎, 加藤真吾, 千葉仁志, 伊藤俊広, 佐藤武幸, 上田敦久, 石ヶ坪良明, 古賀一郎, 太田康男, 山元泰之, 福武勝幸, 古賀道子, 岩本愛吉, 西澤雅子, 岡慎一, 松田昌和, 林田庸総, 横幕能行, 上田幹夫, 大家正義, 田邊嘉也, 白阪琢磨, 小島洋子, 藤井輝久, 高田昇, 高田清式, 山本政弘, 松下修三, 藤田次郎, 健山正男, 杉浦互: 新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性 HIV の動向, 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013
6. 阿部憲介, 佐藤麻希, 小山田光孝, 塚本琢也, 伊藤ひとみ, 佐藤功, 伊藤俊広: 薬剤性腎機能障害により cART 変更となった一症例—薬剤変更のトリガーとしての腎障害—, 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013
7. 山本善彦, 佐藤功, 伊藤俊広: 仙台医療セン

ターにおける HIV 感染患者の合併慢性感染症の検討, 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013

8. 須貝恵, 吉田緑, センテノ田村恵子, 鈴木智子, 辻典子, 井内亜紀子, 濱本京子, 田邊嘉也, 伊藤俊広: 拠点病院診療案内からみる拠点病院の現状, 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013
9. 伊藤俊広: HIV 感染症の見つけ方—インフルエンザ様症状や悪性リンパ腫等に潜む HIV を見逃さないために— (シンポジウム 32 免疫機能低下時の感染管理), 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013

付表2 HIV抗体検査を受検する人を対象とした質問紙調査：MSM以外男性・女性・MSMの各群における比較

	MSM以外の男性 n=533		女性 n=378		MSM n=135		合計 n=1046		χ ² 検定 によるp値	
今回を除いて、これまでにHIV検査（エイズ検査）を受けたことがありますか？										
	再受検	211	39.6%	138	36.5%	87	64.4%	436	41.7%	<0.01
	初受検	322	60.4%	238	63.0%	48	35.6%	608	58.1%	
	無回答	0	0.0%	2	0.5%	0	0.0%	2	0.2%	
年齢										
	24歳以下	91	17.1%	143	37.8%	33	24.4%	267	25.5%	<0.01
	25-34歳	236	44.3%	162	42.9%	50	37.0%	448	42.8%	
	35-44歳	123	23.1%	57	15.1%	34	25.2%	214	20.5%	
	45歳以上	78	14.6%	13	3.4%	17	12.6%	108	10.3%	
	無回答	5	0.9%	3	0.8%	1	0.7%	9	0.9%	
居住地										
	宮城県	505	94.7%	372	98.4%	127	94.1%	1004	96.0%	0.01
	それ以外の地域*	28	5.3%	6	1.6%	8	5.9%	42	4.0%	
居住形態										
	はい(1人暮らし)	232	43.5%	137	36.2%	66	48.9%	435	41.6%	0.02
	いいえ	301	56.5%	240	63.5%	68	50.4%	609	58.2%	
	無回答	0	0.0%	1	0.3%	1	0.7%	2	0.2%	
婚姻状況										
	結婚している	178	33.4%	72	19.0%	12	8.9%	262	25.0%	<0.01
	結婚していない	355	66.6%	306	81.0%	121	89.6%	782	74.8%	
	無回答	0	0.0%	0	0.0%	2	1.5%	2	0.2%	
健康保険加入状況										
	国民健康保険/職場の健康保険	477	89.5%	282	74.6%	113	83.7%	872	83.4%	<0.01
	被扶養者の健康保険（家族・親族等の扶養）	43	8.1%	83	22.0%	15	11.1%	141	13.5%	
	未加入*	13	2.4%	13	3.4%	7	5.2%	33	3.2%	
HIV/STIや検査に関する知識正答*										
	ウィンドウペリオドについて	436	81.8%	303	80.2%	118	87.4%	857	81.9%	0.17
	偽陽性の可能性について	291	54.6%	178	47.1%	88	65.2%	557	53.3%	0.01
	偽陽性の場合、再検査の必要性がある	374	70.2%	253	66.9%	108	80.0%	735	70.3%	0.01
	重複感染について	387	72.6%	265	70.1%	90	66.7%	742	70.9%	0.66
	服薬治療について	423	79.4%	282	74.6%	109	80.7%	814	77.8%	0.37
HIVや性感染症について、あなた自身が困ったとき、不安なときに自分の家族に相談できると感じますか？										
	できない/できないと思う	270	50.7%	212	56.1%	100	74.1%	582	55.6%	<0.01
	わからない	97	18.2%	42	11.1%	12	8.9%	151	14.4%	
	できる/できると思う	165	31.0%	122	32.3%	22	16.3%	309	29.5%	
	無回答	1	0.2%	2	0.5%	1	0.7%	4	0.4%	
HIVや性感染症について、あなた自身が困ったとき、不安なときに身近な友達に相談できると感じますか？										
	できない/できないと思う	282	52.9%	191	50.5%	52	38.5%	525	50.2%	<0.01
	わからない	85	15.9%	40	10.6%	9	6.7%	134	12.8%	
	できる/できると思う	165	31.0%	146	38.6%	74	54.8%	385	36.8%	
	無回答	1	0.2%	1	0.3%	0	0.0%	2	0.2%	
HIVや性感染症について、相談できる場所(電話相談など)を知っていますか？										
	知らない	296	55.5%	212	56.1%	62	45.9%	570	54.5%	0.20
	知っている	234	43.9%	165	43.7%	73	54.1%	472	45.1%	
	無回答	3	0.6%	1	0.3%	0	0.0%	4	0.4%	
過去6ヶ月間に“HIVに感染しているかも…”と不安に感じたことはありましたか？										
	まったくなかった	170	31.9%	116	30.7%	24	17.8%	310	29.6%	0.07
	あまりなかった	160	30.0%	123	32.5%	55	40.7%	338	32.3%	
	時々あった	156	29.3%	113	29.9%	46	34.1%	315	30.1%	
	よくあった	44	8.3%	23	6.1%	10	7.4%	77	7.4%	
	無回答	3	0.6%	3	0.8%	0	0.0%	6	0.6%	
過去6ヶ月間に相手にお金を払ってセックスをしたことがありますか？										
	ない*	271	50.8%	376	99.5%	116	85.9%	763	72.9%	<0.01
	ある	262	49.2%	2	0.5%	19	14.1%	283	27.1%	
過去6ヶ月間に相手からお金をもらってセックスをしたことがありますか？										
	ない*	532	99.8%	333	88.1%	120	88.9%	985	94.2%	<0.01
	ある	1	0.2%	45	11.9%	15	11.1%	61	5.8%	
あなたはこれまでにの性感染症にかかったことはありますか？										
	ない	426	79.9%	264	69.8%	110	81.5%	800	76.5%	<0.01
	ある	101	18.9%	112	29.6%	25	18.5%	238	22.8%	
	無回答	6	1.1%	2	0.5%	0	0.0%	8	0.8%	
広報資料の認知（複数回答）										
	各行政のホームページ	304	57.0%	199	52.6%	73	54.1%	576	55.1%	0.41
	各行政の紙資料・ポスター・広報誌等	108	20.3%	92	24.3%	43	31.9%	243	23.2%	0.01
	CBO活動や資料	7	1.3%	6	1.6%	55	40.7%	68	6.5%	<0.01
	HIVマップ	28	5.3%	18	4.8%	16	11.9%	62	5.9%	0.01
	HIV検査・相談マップ	113	21.2%	93	24.6%	36	26.7%	242	23.1%	0.28
	AC広告(エイズ予防財団)	40	7.5%	29	7.7%	15	11.1%	84	8.0%	0.37

*集計のさいに無回答を含んでいる。

付表3 HIV抗体検査を受検する人を対象とした質問紙調査：
MSM受検者におけるCBO（やろっこ）の活動や資料の認知別分析

	CBO活動や資料の認知				合計 n=135	χ ² 検定 によるp値	
	なし n=80		あり n=55				
今回を除いて、これまでにHIV検査（エイズ検査）を受けたことがありますか？							
再受検	49	61.3%	38	69.1%	87	64.4%	0.35
初受検	31	38.8%	17	30.9%	48	35.6%	
無回答							
年齢							
24歳以下	20	25.0%	13	23.6%	33	24.4%	0.03
25-34歳	23	28.8%	27	49.1%	50	37.0%	
35-44歳	21	26.3%	13	23.6%	34	25.2%	
45歳以上	15	18.8%	2	3.6%	17	12.6%	
無回答	1	1.3%	0	0.0%	1	0.7%	
居住形態							
はい(1人暮らし)	34	42.5%	32	58.2%	66	48.9%	0.16
いいえ	45	56.3%	23	41.8%	68	50.4%	
無回答	1	1.3%	0	0.0%	1	0.7%	
婚姻状況							
結婚している	12	15.0%	0	0.0%	12	8.9%	<0.01
結婚していない	66	82.5%	55	100.0%	121	89.6%	
無回答	2	2.5%	0	0.0%	2	1.5%	
健康保険加入状況							
国民健康保険/職場の健康保険	70	87.5%	43	78.2%	113	83.7%	0.08
被扶養者の健康保険（家族・親族等の扶養）	5	6.3%	10	18.2%	15	11.1%	
未加入*1	5	6.3%	2	3.6%	7	5.2%	
HIV/STIや検査に関する知識正答*1							
ウィンドウピリオドについて	71	88.8%	47	85.5%	118	87.4%	0.46
偽陽性の可能性について	48	60.0%	40	72.7%	88	65.2%	0.13
偽陽性の場合、再検査の必要性がある	61	76.3%	47	85.5%	108	80.0%	0.19
重複感染について	52	65.0%	38	69.1%	90	66.7%	0.83
服薬治療について	63	78.8%	46	83.6%	109	80.7%	0.48
HIVや性感染症について、あなた自身が困ったとき、不安なときに自分の家族に相談できると思いますか？							
できない/できないと思う	60	75.0%	40	72.7%	100	74.1%	0.58
わからない	8	10.0%	4	7.3%	12	8.9%	
できる/できると思う	12	15.0%	10	18.2%	22	16.3%	
無回答	0	0.0%	1	1.8%	1	0.7%	
HIVや性感染症について、あなた自身が困ったとき、不安なときに身近な友達に相談できると思いますか？							
できない/できないと思う	35	43.8%	17	30.9%	52	38.5%	0.03
わからない	8	10.0%	1	1.8%	9	6.7%	
できる/できると思う	37	46.3%	37	67.3%	74	54.8%	
無回答							
HIVや性感染症について、相談できる場所(電話相談など)を知っていますか？							
知らない	33	41.3%	29	52.7%	62	45.9%	0.19
知っている	47	58.8%	26	47.3%	73	54.1%	
無回答							
過去6ヶ月間に“HIVに感染しているかも…”と不安に感じたことはありましたか？							
まったくなかった/あまりなかつ	42	52.5%	37	67.3%	79	58.5%	0.09
よくあった/時々あった	38	47.5%	18	32.7%	56	41.5%	
無回答							
あなたはこれまでに性感染症にかかったことはありますか？							
ない	67	83.8%	43	78.2%	110	81.5%	0.41
ある	13	16.3%	12	21.8%	25	18.5%	
無回答							
広報資料の認知（複数回答）							
各行政のホームページ	41	51.3%	32	58.2%	73	54.1%	0.43
各行政の紙資料-ポスター-広報誌	25	31.3%	18	32.7%	43	31.9%	0.86
HIVマップ	8	10.0%	8	14.5%	16	11.9%	0.42
HIV検査・相談マップ	20	25.0%	16	29.1%	36	26.7%	0.60
AC広告(エイズ予防財団)	5	6.3%	10	18.2%	15	11.1%	0.03
特定(恋人や夫など)の男性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況*2							
常用	15	28.8%	10	23.8%	25	26.6%	0.58
非常用	37	71.2%	32	76.2%	69	73.4%	
特定以外の男性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況*2							
常用	15	35.7%	14	34.1%	29	34.9%	0.88
非常用	27	64.3%	27	65.9%	54	65.1%	
特定(恋人や妻など)の女性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況*2							
常用	10	30.3%	1	14.3%	11	27.5%	0.39
非常用	23	69.7%	6	85.7%	29	72.5%	
特定以外の女性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況*2							
常用	8	28.6%	2	33.3%	10	29.4%	0.82
非常用	20	71.4%	4	66.7%	24	70.6%	

*1 集計のさいに無回答を含んでいる。

*2 過去6ヶ月間に膣性交または肛門性交を行ったと回答したもののみを分析対象としたため総数が異なる。

付表4 GCQ アンケート (2013) : 年齢別の基礎属性

	年齢層5区分					合計 n=182	Pearson χ^2
	24歳以下	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40歳以上		
	n=46	n=39	n=22	n=29	n=46		
性的指向							
ゲイ(同性愛者)	34 73.9%	29 74.4%	18 81.8%	24 82.8%	38 82.6%	143 78.6%	0.30
バイ(両性愛者)	11 23.9%	10 25.6%	2 9.1%	4 13.8%	5 10.9%	32 17.6%	
その他	1 2.2%	0 0.0%	2 9.1%	1 3.4%	3 6.5%	7 3.8%	
あなたは、現在だれかと一緒に暮らしていますか？							
一人暮らし	21 45.7%	15 38.5%	8 36.4%	10 34.5%	21 45.7%	75 41.2%	0.97
家族と同居	17 37.0%	16 41.0%	8 36.4%	12 41.4%	15 32.6%	68 37.4%	
家族以外と同居	8 17.4%	8 20.5%	6 27.3%	7 24.1%	10 21.7%	39 21.4%	
あなたは現在、結婚していますか？							
結婚している	0 0.0%	2 5.1%	0 0.0%	2 6.9%	7 15.2%	11 6.0%	0.02
結婚していない	46 100.0%	37 94.9%	22 100.0%	27 93.1%	39 84.8%	171 94.0%	
あなたは現在、健康保険を持っていますか？							
国民健康保険	12 26.1%	9 23.1%	11 50.0%	12 41.4%	23 50.0%	67 36.8%	0.00
職場の健康保険	19 41.3%	29 74.4%	10 45.5%	16 55.2%	23 50.0%	97 53.3%	
被扶養者の健康保険	12 26.1%	1 2.6%	1 4.5%	1 3.4%	0 0.0%	15 8.2%	
持っていない	3 6.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 1.6%	
次の中でこれまでに利用したものはありますか？(あてはまるものすべて)							
ゲイバー	37 80.4%	37 94.9%	19 86.4%	28 96.6%	44 95.7%	165 90.7%	0.05
ゲイナイト	12 26.1%	26 66.7%	15 68.2%	19 65.5%	20 43.5%	92 50.5%	0.00
ゲイショップ	18 39.1%	24 61.5%	12 54.5%	23 79.3%	26 56.5%	103 56.6%	0.02
PC出会い系サイト	17 37.0%	17 43.6%	13 59.1%	18 62.1%	15 32.6%	80 44.0%	0.06
携帯出会い系サイト	23 50.0%	21 53.8%	15 68.2%	23 79.3%	23 50.0%	105 57.7%	0.06
mixiなどのSNS	27 58.7%	21 53.8%	12 54.5%	15 51.7%	16 34.8%	91 50.0%	0.19
エロ系SNS	10 21.7%	11 28.2%	7 31.8%	10 34.5%	15 32.6%	53 29.1%	0.74
スマートフォンのゲイ向けアプリ	27 58.7%	22 56.4%	14 63.6%	18 62.1%	14 30.4%	95 52.2%	0.02
ゲイ向けサークル	7 15.2%	3 7.7%	1 4.5%	5 17.2%	2 4.3%	18 9.9%	0.22
ゲイ向け合コン	8 17.4%	3 7.7%	6 27.3%	4 13.8%	2 4.3%	23 12.6%	0.06
ゲイの乱パ	2 4.3%	3 7.7%	1 4.5%	5 17.2%	4 8.7%	15 8.2%	0.35
有料のハッテン場	14 30.4%	13 33.3%	10 45.5%	18 62.1%	17 37.0%	72 39.6%	0.07
野外のハッテン場	5 10.9%	6 15.4%	5 22.7%	17 58.6%	14 30.4%	47 25.8%	0.00
ハッテン場で有名な公共施設	9 19.6%	8 20.5%	8 36.4%	17 58.6%	16 34.8%	58 31.9%	0.00
いずれも利用なし	2 4.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 1.1%	0.20

付表5 GCQ アンケート (2013) : 年齢別の検査行動、HIV の身近さ、性感染症罹患、性行動

	年齢層5区分										合計 n=182	Pearson χ^2	
	24歳以下		25-29歳		30-34歳		35-39歳		40歳以上				
	n=46		n=39		n=22		n=29		n=46				
これまでにHIV抗体検査を受けようと思ったことはありますか？													
ある	36	78.3%	35	89.7%	18	81.8%	25	86.2%	32	69.6%	146	80.2%	0.18
ない	10	21.7%	4	10.3%	4	18.2%	4	13.8%	14	30.4%	36	19.8%	
これまでにHIV抗体検査を受けたことはありますか？													
ある	19	41.3%	27	69.2%	15	68.2%	20	69.0%	22	47.8%	103	56.6%	0.02
ない	27	58.7%	12	30.8%	7	31.8%	9	31.0%	24	52.2%	79	43.4%	
過去1年間にHIV抗体検査を受けたことはありますか？													
ある	12	26.1%	16	41.0%	7	31.8%	9	31.0%	9	19.6%	53	29.1%	0.28
ない	34	73.9%	23	59.0%	15	68.2%	20	69.0%	37	80.4%	129	70.9%	
過去1年の検査場所													
保健所の通常検査	5	10.9%	8	20.5%	3	13.6%	5	17.2%	6	13.0%	27	14.8%	0.76
保健所の即日検査	8	17.4%	9	23.1%	3	13.6%	2	6.9%	1	2.2%	23	12.6%	0.04
医療センターなどの病院	2	4.3%	0	0.0%	2	9.1%	1	3.4%	1	2.2%	6	3.3%	0.41
クリニック・医院・診療所	1	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	2	6.9%	2	4.3%	5	2.7%	0.39
その他	0	0.0%	0	0.0%	1	4.5%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	0.12
あなたの友達や知り合いにHIVに感染している人はいると思いますか？													
いる	11	23.9%	12	30.8%	13	59.1%	8	27.6%	9	19.6%	53	29.1%	0.06
いると思う	6	13.0%	10	25.6%	1	4.5%	5	17.2%	4	8.7%	26	14.3%	
いないと思う	14	30.4%	9	23.1%	2	9.1%	5	17.2%	12	26.1%	42	23.1%	
いない	5	10.9%	3	7.7%	3	13.6%	6	20.7%	6	13.0%	23	12.6%	
わからない	10	21.7%	5	12.8%	3	13.6%	5	17.2%	15	32.6%	38	20.9%	
過去6か月間に彼氏や恋人とHIVやエイズについて話したことがありますか？													
ある	10	21.7%	14	35.9%	11	50.0%	7	24.1%	10	21.7%	52	28.6%	0.01
ない	16	34.8%	19	48.7%	4	18.2%	9	31.0%	24	52.2%	72	39.6%	
彼氏・恋人がいなかった	20	43.5%	6	15.4%	7	31.8%	13	44.8%	12	26.1%	58	31.9%	
過去6か月間に友達や知り合いとHIVやエイズについて話したことがありますか？													
ある	20	43.5%	21	53.8%	14	63.6%	14	48.3%	16	34.8%	85	46.7%	0.19
ない	26	56.5%	18	46.2%	8	36.4%	15	51.7%	30	65.2%	97	53.3%	
過去6か月間に周囲の人とHIVやエイズについて話したことがありますか？													
ある	21	45.7%	22	56.4%	15	68.2%	15	51.7%	18	39.1%	91	50.0%	0.19
ない	25	54.3%	17	43.6%	7	31.8%	14	48.3%	28	60.9%	91	50.0%	
次の中で、これまでにかかったことがある性感染症はありますか？ (あてはまるものすべて)													
梅毒	2	4.3%	1	2.6%	1	4.5%	6	20.7%	7	15.2%	17	9.3%	0.03
A型肝炎	0	0.0%	2	5.1%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.2%	3	1.6%	0.33
B型肝炎	2	4.3%	3	7.7%	2	9.1%	2	6.9%	7	15.2%	16	8.8%	0.45
クラミジア	0	0.0%	2	5.1%	3	13.6%	0	0.0%	5	10.9%	10	5.5%	0.05
尖圭コンジローマ	1	2.2%	1	2.6%	2	9.1%	1	3.4%	3	6.5%	8	4.4%	0.63
淋病	0	0.0%	2	5.1%	0	0.0%	3	10.3%	3	6.5%	8	4.4%	0.19
HIV感染症	2	4.3%	0	0.0%	3	13.6%	0	0.0%	0	0.0%	5	2.7%	0.01
赤痢アメーバ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	8.7%	4	2.2%	0.02
毛じらみ	4	8.7%	9	23.1%	7	31.8%	11	37.9%	15	32.6%	46	25.3%	0.03
性器ヘルペス	0	0.0%	0	0.0%	1	4.5%	4	13.8%	1	2.2%	6	3.3%	0.01
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	4.3%	2	1.1%	0.20
いずれもなし	39	84.8%	23	59.0%	12	54.5%	15	51.7%	19	41.3%	108	59.3%	0.00
これまでに男性とセックスをしたことがありますか？													
ある	40	87.0%	39	100.0%	20	90.9%	29	100.0%	41	89.1%	169	92.9%	0.07
ない	6	13.0%	0	0.0%	2	9.1%	0	0.0%	5	10.9%	13	7.1%	
これまでに男性とアナルセックスをしたことがありますか？													
ある	37	80.4%	36	92.3%	19	86.4%	27	93.1%	36	78.3%	155	85.2%	0.23
ない	9	19.6%	3	7.7%	3	13.6%	2	6.9%	10	21.7%	27	14.8%	

付表 6 GCQ アンケート (2013) : 年齢別の性行動

	年齢層5区分					合計	Pearson χ^2
	24歳以下	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40歳以上		
過去6ヶ月間のアナルセックス経験							
過去6ヶ月間あり	32 86.5%	29 80.6%	16 84.2%	22 81.5%	28 77.8%	127 81.9%	0.90
過去6ヶ月間なし	5 13.5%	7 19.4%	3 15.8%	5 18.5%	8 22.2%	28 18.1%	
合計	46 100.0%	39 100.0%	22 100.0%	29 100.0%	28 100.0%	127 100.0%	
コンドーム使用状況							
非常用	21 65.6%	16 55.2%	11 68.8%	13 59.1%	20 71.4%	81 63.8%	0.72
常用	11 34.4%	13 44.8%	5 31.3%	9 40.9%	8 28.6%	46 36.2%	
合計	32 100.0%	29 100.0%	16 100.0%	22 100.0%	28 100.0%	127 100.0%	
彼氏や恋人などの相手とのコンドーム使用状況							
非常用	12 75.0%	7 50.0%	9 75.0%	9 69.2%	13 92.9%	50 72.5%	0.16
常用	4 25.0%	7 50.0%	3 25.0%	4 30.8%	1 7.1%	19 27.5%	
合計	16 100.0%	14 100.0%	12 100.0%	13 100.0%	14 100.0%	69 100.0%	
友達やセクフレなど恋人ではない特定の相手とのコンドーム使用状況							
非常用	7 50.0%	5 45.5%	2 66.7%	2 28.6%	5 41.7%	21 44.7%	0.82
常用	7 50.0%	6 54.5%	1 33.3%	5 71.4%	7 58.3%	26 55.3%	
合計	14 100.0%	11 100.0%	3 100.0%	7 100.0%	12 100.0%	47 100.0%	
その場限りの相手とのコンドーム使用状況							
非常用	6 60.0%	5 83.3%	1 50.0%	5 71.4%	5 55.6%	22 64.7%	0.80
常用	4 40.0%	1 16.7%	1 50.0%	2 28.6%	4 44.4%	12 35.3%	
合計	10 100.0%	6 100.0%	2 100.0%	7 100.0%	9 100.0%	34 100.0%	

付表7 GCQ アンケート (2013) : 年齢別の性行動、薬物使用、金銭を介した性行動、資材認知

	年齢層5区分					合計 n=182	Pearson χ^2
	24歳以下	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40歳以上		
	n=46	n=39	n=22	n=29	n=46		
過去6ヶ月間に、口内射精をしたことがありますか？または、口内射精をされたことはありますか？							
口内射精したことがある	13 28.3%	15 38.5%	6 27.3%	11 37.9%	9 19.6%	54 29.7%	0.01
口内射精されたことがある	11 23.9%	4 10.3%	1 4.5%	4 13.8%	10 21.7%	30 16.5%	
どちらもある	11 23.9%	0 0.0%	5 22.7%	6 20.7%	4 8.7%	26 14.3%	
どちらもない	11 23.9%	20 51.3%	10 45.5%	8 27.6%	23 50.0%	72 39.6%	
過去6ヶ月間のセックス時の薬物併用経験							
いずれもなし	41 89.1%	35 89.7%	19 86.4%	21 72.4%	34 73.9%	150 82.4%	0.13
パイアグラのみ併用	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 10.3%	3 6.5%	6 3.3%	
他の薬物併用経験あり	5 10.9%	4 10.3%	3 13.6%	5 17.2%	9 19.6%	26 14.3%	
過去6ヶ月間のセックス時の薬物併用経験 (再掲)							
いずれもなし	41 89.1%	35 89.7%	19 86.4%	21 72.4%	34 73.9%	150 82.4%	0.12
他の薬物併用経験あり	5 10.9%	4 10.3%	3 13.6%	8 27.6%	12 26.1%	32 17.6%	
過去6ヶ月間に、コンドームを買ったことがありますか？							
ある	19 41.3%	16 41.0%	5 22.7%	11 37.9%	10 21.7%	61 33.5%	0.16
ない	27 58.7%	23 59.0%	17 77.3%	18 62.1%	36 78.3%	121 66.5%	
過去6ヶ月間に相手にお金を払ってセックスをしたことがありますか？							
ある	4 8.7%	5 12.8%	0 0.0%	1 3.4%	2 4.3%	12 6.6%	0.27
ない	42 91.3%	34 87.2%	22 100.0%	28 96.6%	44 95.7%	170 93.4%	
過去6ヶ月間に相手にお金をもらってセックスをしたことがありますか？							
ある	9 19.6%	5 12.8%	1 4.5%	1 3.4%	1 2.2%	17 9.3%	0.03
ない	37 80.4%	34 87.2%	21 95.5%	28 96.6%	45 97.8%	165 90.7%	
仙台のコミュニティセンター ZEL(ゼル)に行ったことがありますか？							
行ったことがある	11 23.9%	13 33.3%	7 31.8%	7 24.1%	8 17.4%	46 25.3%	0.13
知っているが行ったことない	9 19.6%	13 33.3%	5 22.7%	12 41.4%	21 45.7%	60 33.0%	
知らない	26 56.5%	13 33.3%	10 45.5%	10 34.5%	17 37.0%	76 41.8%	
やろっこが配布しているコミュニティペーパー-ZEL を読んだことがありますか？							
読んだことがある	19 41.3%	24 61.5%	9 40.9%	17 58.6%	19 41.3%	88 48.4%	0.04
知っているが読んだことない	2 4.3%	3 7.7%	4 18.2%	3 10.3%	11 23.9%	23 12.6%	
知らない	25 54.3%	12 30.8%	9 40.9%	9 31.0%	16 34.8%	71 39.0%	
やろっこが配布しているコンドームを持ち帰ったことがありますか？							
過去1年間に持ち帰った	17 37.0%	15 38.5%	6 27.3%	18 62.1%	23 50.0%	79 43.4%	0.15
1年以上前に持ち帰った	1 2.2%	5 12.8%	2 9.1%	1 3.4%	3 6.5%	12 6.6%	
知っているが持ち帰ったことない	6 13.0%	8 20.5%	5 22.7%	1 3.4%	5 10.9%	25 13.7%	
知らない	22 47.8%	11 28.2%	9 40.9%	9 31.0%	15 32.6%	66 36.3%	
IIあなたは今年仙台で開催された「イニミニマニモ」に行ったことがありますか？							
行ったことがある	5 10.9%	9 23.1%	6 27.3%	7 24.1%	10 21.7%	37 20.3%	0.36
知っているが行ったことない	10 21.7%	10 25.6%	5 22.7%	10 34.5%	7 15.2%	42 23.1%	
知らない	31 67.4%	20 51.3%	11 50.0%	12 41.4%	29 63.0%	103 56.6%	

首都圏の MSM における HIV 感染対策の企画と実施

研究代表者：市川誠一(名古屋市立大学看護学部 教授)

研究協力者：荒木順子、佐久間久弘、木南拓也(公益財団法人エイズ予防財団/特定非営利活動法人 akta)、岩橋恒太(名古屋市立大学看護学部/特定非営利活動法人 akta)、大島岳、柴田恵、阿部甚兵(特定非営利活動法人 akta)、生島嗣、桜井啓介、加藤悠二(特定非営利活動法人ふれいす東京)、高野操(公益財団法人エイズ予防財団/独立行政法人国立国際医療研究センター・エイズ治療研究開発センター)、金子典代、塩野徳史(名古屋市立大学看護学部)

研究要旨

首都圏地域では 2006 年から 2010 年度にかけて、厚生労働省エイズ対策研究事業「エイズ予防のための戦略研究」課題 1(以下、戦略研究)において、首都圏に居住する男性同性愛者等(以下、MSM)を対象に HIV の支援・相談体制の整備、HIV の感染予防啓発、HIV 抗体検査普及活動等が、様々なネットワークを構築・活用して取り組まれてきた。その介入の結果、首都圏の MSM における HIV 抗体検査の受検者割合の増加、初回診断時にエイズ発症しているケース(以下、初回報告エイズ患者数)の減少という成果をあげている。2011 年 3 月をもって戦略研究は終了したが、その後も MSM を対象とした効果的なエイズ対策を本地域において継続、展開していくことが必要である。

2012 年 1 月、厚生労働省は感染症法に基づく「後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針(以下、エイズ予防指針)」を改正した。今回の改正では、特に個別施策層への対策の更なる重点化、および行政と NGO 等の連携した取り組みの重要性等が明記された。加えて、個別施策層について、新たに「薬物乱用者」が追加・明記されている。こうしたことを踏まえ、本研究は首都圏の MSM を対象とし、HIV 感染予防の啓発普及および HIV 抗体検査受検行動を促進するための啓発普及を通じて、初回報告エイズ患者数が減少することと HIV の新規感染の拡大防止することを目的とした。啓発普及は、コミュニティセンター akta を基点としたコミュニティベースの活動、および特定非営利活動法人ふれいす東京(以下、ふれいす東京)と特定非営利活動法人 akta(以下、akta)の協働体制である「MSM 首都圏グループ」の検査普及活動によって行われた。さらに、コミュニティにおける啓発活動を促進する、キーパーソン、商業施設やメディア等とのネットワーク、MSM が安心して受検できる HIV 抗体検査を促進するための行政・保健所、医療機関とのネットワーク、そして HIV に関連する多様なニーズに応じた支援を行っている NGO/NPO 等とのネットワークの強化や新たな構築を図った。

研究 3 年目となる本年度は、以下のことを中心に実施した。

1. コミュニティセンター akta を基点とした啓発活動

2003 年 9 月にオープンしたコミュニティセンター akta では、2013 年 12 月末までの総来場者はのべ 94,931 人となった。また、2013 年度来場者数(2013 年 12 月 31 日まで)は 5,787 人、初来場者は 1,269 人(来場者中 21.9%)であった。継続的な啓発資材として、毎月の定期発行制作物「コミュニティペーパー akta」と TAKE FREE CONDOM を作成した。なお、「コミュニティペーパー akta」は今年度 6 ヶ月間の休刊期間を経て、新たな形式でのスタートを 2014 年 1 月より行った。これらのツールを、コミュニティセンター akta を基点

とし、DELIVERY BOYS、ADULT DELIVERY や資材発送により普及を行った。

行政、検査施設との連携として、新宿区保健所、港区みなと保健所、東京都福祉保健局、多摩川病院等の検査情報を広報した。改正エイズ予防指針を踏まえ、東京都福祉保健局と連携し、薬物使用と HIV に関する資材やトークショーの企画、実施を行った。

ゲイコミュニティのキーパーソンとの連携を構築、強化しながら、MSM の HIV の感染予防の普及啓発に関して新規性、およびより訴求性のあるメッセージを発信するキャンペーンとプログラムを新たに企画、実施した。昨年度に続き、2013 年 7 月から 10 月にかけて展開した「akta safer sex campaign 2013」では、首都圏地域のバーなどゲイ向け商業施設(200 店舗)、ハッテン場(15 店舗)との協力関係を構築、強化し、セーファーセックスに関するメッセージを伝えるカード、オリジナルコンドーム、ポスター等を制作、配布した。

多様性をともなう視点から、「私たちはすでに HIV とともに生きている」というリアリティを伝える Living Together 計画との連携のもと、2004 年 9 月より実施されてきた「Living Together Lounge」が 2012 年 4 月に終了した。そのため、継続している「Living Together のど自慢」に加え、新たな啓発イベントのあり方の検討と企画を行い、特に若年層を対象として意識した、2012 年 8 月より「akta tag tour」を開始し、今年度も継続して実施した。

2. 首都圏地域に居住する MSM を対象とした HIV 抗体検査受検行動を促進するための介入研究

戦略研究以後のふれいす東京と akta の協働体制「MSM 首都圏グループ」を通じて、地域の行政・保健所等、医療機関と連携し、MSM の HIV 抗体検査受検行動を促進するプロジェクト「ヤロープロジェクト」を展開した。ここでは、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県を介入地域とし、1) エイズ対策事業に関する意見交換会の開催、2) 保健所等の HIV 抗体検査担当者への研修会の開催、3) 支援・相談体制の整備としてのウェブサイト「HIV マップ」の運営と更新、4) 首都圏の MSM を対象とした HIV 抗体検査普及のための冊子「ヤローページ」の開発と普及、5) MSM 集団における啓発介入の評価調査について実施した。

検査促進のための啓発普及は、新宿を基点に、上野・浅草、新橋、渋谷、横浜等で、ゲイ向け商業施設や各種メディアを通じて実施した。

3. 首都圏の MSM における啓発介入評価調査

1) HIV 抗体検査受検者を対象とした質問紙調査

東京都 18 箇所、神奈川県 8 箇所、千葉県 12 箇所の保健所等の協力を得て HIV 抗体検査受検者を対象とした質問紙調査を実施し、MSM 受検者の動向把握および啓発介入に用いた資材認知を評価した。2013 年 1 月から 2013 年 9 月末までの回答者を対象に分析した。全受検者中の MSM 割合は、東京都内保健所(南新宿検査・相談室を除く)15.7%、南新宿検査・相談室 27.1%、神奈川県内保健所等 12.5%、千葉県内保健所 6.2%であった。MSM 受検者で、CBO 活動や資材を認知する者は再受検者の割合、性感染症の既往歴を持つ割合が高く、HIV や性感染症について困った時や不安な時に身近な友人に相談できると思っている割合や相談場所の認知割合も高かった。

2) コミュニティネットワークを用いた MSM を対象とする性の健康、HIV/AIDS 感染予防行動に関する質問紙調査-GCQ アンケート

首都圏在住のゲイ・バイセクシュアル男性および MSM 491 人を、24 歳以下、25-29 歳、30-34 歳、35-39 歳、40 歳以上に分類し、HIV を含む性感染症に関連した状況や行動を年齢層別に把握した。

HIV 抗体検査については、受検意図を有する割合が 86.2%、生涯の受検経験率が 77.4%で MSM は比較的受検していることが分かった。しかし、24 歳以下では意図を有する者が 77.4%に対し、生涯受検経験率は 58.5%と低く、若年層での HIV 感染者増が著しいことから、この層への介入が必要と思われる。